

令和5年度小平市立花小金井南中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

学習指導要領の内容においては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」のみ、全国平均を下回った。また、「情報の扱い方に関する事項」も全国平均を上回ったものの、その差は4.3ポイントと他の項目に比べて低かった。

課題

「知識及び技能」に関する分野が、「思考力・判断力・表現力」の分野に比べ苦手であることが分析から分かった。特に、漢字の書き取りや、言葉の意味や使い方に関する知識が不足している。今後、漢字の知識や、文章中での言葉の意味など語彙力を上げていくことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・各単元の新出漢字等について、小テスト等、確認・反復練習をする機会を増やす。
- ・言語事項に関する単元の際に、幅広い語彙を取り上げ、知識を広げさせる。
- ・文章を書く際や、読む際に辞書を引かせるなど、一つ一つの言葉を大切に扱い、語彙力を高めることを意識づける。
- ・書いたり、話したりして表現することには比較的慣れているので、自分が表現したものを振り返ったり、他者の文章等を評価したりする際に、言葉の意味が適切に使われているのかなど、基本的なことに意識を向けられるよう働きかける。

【数学】

状況の分析

学習指導要領の領域においては、「数と式」で東京都より8.3ポイント高く、「図形」においては7ポイント、「関数」において10.5ポイント、「データの活用」では13.8ポイント高い結果となっており。評価の観点において、「知識・技能」では8.2ポイント、「思考・判断・表現」では12.7ポイント、問題形式では、選択式で7.2ポイント、短答式では8.8ポイント、記述式では12.7ポイント高い結果となっている。すべての項目において東京都の平均を上回っている。

課題

「数と式」「図形」「関数」「データの活用」において平均としては全国および東京都より上回っているが、正答率で見ると「図形」の領域が46.2と半数を下回っている。中でも空間図形に関する問題で39.1と4割を下回っている。さらに、条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかという問題では45.3と半数を下回っている。また、データの活用においてデータの比較を数学的な表現を用いて説明する問題においても48.4と正答率が半数を下回っている。また「知識・技能」が正答率が66.9にたいして「思考・判断・表現」の正答率が58.5と低いことが課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

基本的な問題に対してはよくできるが、応用問題を解く力や物事に対して筋道を立てて説明する力がまだ育てられていないと思われる。引き続き少人数による習熟度別授業に取り組み。小集団での学び合い学習や習熟度に合わせた問題に取り組ませていきたい。

【英語】

状況の分析

課題

学習指導要領の領域である「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のすべてにおいて、全国平均を10.5%以上、上回った。「書くこと」においては16.7%高かった。しかし、評価の観点では「知識・技能」「思考・判断・表現」の両方が全国平均を上回ったものの、その差が「知識・技能」では14.5%が「思考・判断・表現」11.4%となった。また、問題形式では「記述式」が27.0%と低かった。

「思考力・判断力・表現力」に関する分野が、「知識及び技能」の分野に比べ、苦手であることが分析から分かった。特に、「短い文章の概要を捉えること」や「会話が成り立つように英文を完成させること」「事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと」を強化する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・帯活動としてやっている、読解問題のトレーニングの内容を見直す。
- ・文章を書く際に必要な表現を定着させるため、小テスト等を増やす。
- ・事実や、自分の考えを文章で表現できるように、授業時にそれを実際に話したり、書いたりする機会を増やし、繰り返し演習させる。

【質問紙】

状況の分析

課題

ほぼすべての項目で全国・東京都の数値を上回っていた。生活習慣、人格形成、他者理解など多くの面で成長と手応えを感じている。ICT活用の意義を感じつつも、使用経験に満足していないこと、読書の価値を感じつつも、本が身近にある環境ではなくなり、機会が減少していることが回答結果からわかった。学校生活が充実し、経験が社会に通じるものであることを実感していることがわかる。

計画や将来の見通しをもつことができているが、その反面、高い基準を自らに設定しているため満足をすることが難しくなっている。その思いを満たしていく指導が必要である。読書を行うことが好きではあるが、本を利用する機会と学校外でも新聞や本にふれることができる環境が減少していることがあるため、本に慣れ親しむ環境を構築し、機会を増やしていくことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

全国学力・学習状況調査で課題となった点を生徒・教員が各々で確認・検討し、生徒自身が学習に興味や関心をもち、主体的にとりくんでいく。その過程で学びの目的が明確になり、「学ぼうとする力」が獲得されていく。今回課題で明らかになったのは将来の見通しを付けていく力である。見通しをもつ力は決して低いわけではなく、むしろ高いレベルで身に付いてきているが、自己に対しての思い・期待も同時に基準が上がっているために、数値が下がっている。自尊心を高めていく取り組み、声掛けを続け、「わかった、できた、解決した」をつくることのできる環境で活動する自分を認めていくような指導を続けていきたい。また、社会環境の変化に合わせて、ICT環境の大幅な変化に対してまだまだ経験が少ないこと、また、その変化に合わせて読書環境が減少していることに対しては、学校側から本に慣れ親しむ機会や課題設定を設け、ICT環境と読書環境のそれぞれの長所を生かした指導を充実させていく。

継続して「自分で考える」→「自分の考えを周囲と共有する」→「自分の考えを再構築して理解を深める」言語活動を柱とする学習を推進する。具体的には意見交換の場面を増やし、考えを共有し、自らの考えの深化を図り、学習意欲の向上を図る。また、ICT機器の活用や本の活用の最適化、チームティーチング、少人数指導などの指導体制を充実させ、生徒の自主的な活動、自己肯定感の育成を推進する。